

心をよつめる。

第二十四

北九州市内・近郊の寺院の僧侶にお言葉をいただくコーナーです。老後を心豊かに生きるためのヒントとなりますように・・・。

ご縁のなかで生きる

私が仏教の世界を歩み始めて5年が経ち、6年目を迎えようとしております。豊臣秀吉が桜の花見をしたことで有名な京都醍醐寺の修行道場において、1年間修行僧として努めておりました。

神奈川県横浜市で生まれ育ち、実家はお寺ですが4人兄弟の末っ子のため、お坊さんになるとは考えてもいませんでした。海やビル、ネオン街などが立ち並び、忙しく人が行き交う町で過ごしてきたのです。

現在は門司区にある真言宗不動院の副住職をさせていただいております。一人娘の妻とは京都の仏教系の大学で知り合い、ご縁をいただき、3人の子どもにも恵まれ、北九州で僧侶として日々努めてお



ります。お寺の世界ではよくある話ですが、いわゆる「婿養子」でございませぬ。

大学卒業後、すぐお坊さんになったわけではございません。僧侶になる前はと言いますと、京都の貿易会社に勤めておりサラリーマンをしておりました。中国・台湾・香港など、主にアジア圏を中心に天然石を仕入れ、京都の老舗念珠店や通販などに卸す仕事をしておりました。

きつと今、私のコラムを見てくださっている方は「こんなお坊さんもいるんだなあ」と思われたのではないのでしょうか。たしかに私の周りのお坊さんは、学生生活を終えたと同時に修行に励んでいる方がほとんどです。しかし、私は



真言宗 不動院 副住職
大原 成敬 さん

僧侶になる為に与えられた道の上を歩くか、それとも僧侶であるまにに社会の動き方、お金の働き方、企業の在り方を学ぶべきか迷いが生じておりました。そのような悩んでいた時、当時勤めていた会社の方にお声がけいただきまして。これも何かのご縁だと思いつ返事でお応えさせていただきました。

お坊さんの世界は個性的ゆえ、お坊さん以外の方と繋がることあまりございません。おかげさまで今、サラリーマン時代にお世話になった方々と、僧侶として仕事を通じ、ご縁を結ばせていただいております。急がずともその時が来れば、ご縁は運ばれてくると感じております。

「3つの縁」という言葉がございます。「縁にしたがい、縁に逆



九州三十六不動霊場 第三十三番札所
九州八十八ヶ所百八霊場九十二番札所
真言宗 不動院
門司区吉志 171-3
(093)481-1044

らうことなく、その縁に感謝する」。この言葉は、醍醐寺の座主様より頂いたお言葉です。私は、この3つの縁を心の中心に添えております。お顔は見えなくても、文を通して皆様にお会いできたご縁に心より感謝申し上げます。

合掌

【お知らせ】毎月28日10時より不動護摩供、1日14時より弁天護摩供を勤修しております。どなたもご自由にご参拝下さいませ。また、不動院の納骨堂では宗派問わず8種類の納骨壇をご用意しております。ご希望の際はご連絡くださいませ。